

法人（事業所）理念	<p>法人理念 人が人として人とともに豊かに生きる</p> <p>基本方針 1. わたくし達は人との出会いを大切にします 2. わたくし達は思いやりと謙虚な気持ちを大切にします 3. わたくし達は個人を尊重し心優しい援助に努めます 4. わたくし達は社会福祉に貢献できるよう資質の向上に努めます 5. わたくし達は地域との信頼を深め開かれた施設運営に努めます</p>						
支援方針	<p>児童発達支援（就学前児）ねっこでは、大人が一人ひとりのお子さまの気持ちに寄り添うことを大切にします。嬉しい、辛いなど、子ども達が大人に思いや感情を受け止められることで、自身を“かけがえない存在だと思（感じ）”、“こころのねっこ”が育つことを目標とします。また、家族支援、地域支援、移行支援にも力を入れ、お子さま一人ひとりが社会の中で安心、安全に過ごすことができるよう支援を行います。療育内容に関しては、個々の発達段階や障害特性に合わせて個別支援計画を作成し、発達の5領域に対応した支援を行います。</p>						
営業時間	9時	0分から	17時	0分まで	送迎実施の有無	なし	
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 障害特性に配慮し、時間や空間をわかりやすくするために構造化等により環境調整を行います。また、情報を視覚化（写真、モデル提示等）してお子さまに指示や説明を行います。 安心、安全に事業所を利用していただくために、自ら発信することが難しいお子様のサインなどに気づくことができるようきめ細やかな観察を行い、記録やスタッフ間での振り返りを通して”本人理解”に努めます。 先生の指示に注意を向ける、ルールを理解して行動するなど、就園、就学に向けて集団生活に必要なスキルを習得していただけるよう支援を行います。 食具の操作や姿勢保持などの練習は遊びを通して行い、楽しみながら基本的な生活スキルを学んでいただけるよう配慮しています。 					
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 様々な運動遊びや道具操作を取り入れ、お子さまの運動機能の向上や手指の巧緻性、姿勢の発達を目指します。（タイミングよく動く、力の加減をコントロールする、体幹の形成、目と手指の協応、指先の巧緻性等） 集団クラスでは同じ運動遊びでも、お子さま一人ひとりの発達段階（年齢）に応じて難易度を調整します。（簡単すぎず、難しすぎないよう個々のニーズに合わせた課題設定を目指します） 個々の感覚特性に応じた活動設定を行います。感覚過敏のあるお子さんには無理強ひさせることなく、ご本人のペースで意欲を持って取り組んでいただけるよう支援を行います（スモールステップ） 例）粘土が苦手なお子さんにはまずは道具を使って間接的に触れてみる等 逆に感覚刺激をたくさん取り入れたいお子様（激しい運動が好き）には、前庭覚、固有受容覚の刺激が豊富な遊びをプログラムに取り入れています。例）ブランコ、サーキット 					
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 未就園児（2歳児～3歳児）クラスでは、定期的に個別課題を取り入れ、視覚、聴覚等感覚を十分活用して遊ぶことができる教材をたくさん取り入れ、認知機能の発達を促します。また、単にできることを増やすのではなく、それらの経験を通して目的を達成するために試行錯誤しながら最後までやり遂げる力の獲得を目指します（主体性の育ち）。 就園児（3歳児～5歳児）クラスでは、毎回個別課題を取り入れ、就学に向けて必要な力の獲得を目指します。色、形、大小、数、文字、空間、位置等、教材を通して様々な概念を学んでいただけるよう支援を行います。また、お子さま一人ひとりの発達段階（発達年齢）に応じて教材を選定しており、お子さまにとって簡単すぎず、難しすぎないような課題設定に努めます。 					
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 言語表出がなく他者との関わりより物事に興味を示すお子さまに対しては、言葉を教え込んだり、無理に遊びに誘ったりはせずご本人のペースに合わせて関わります。スタッフがお子さまの思いや気持ちを汲み取り、共感的な姿勢で関わりながらもまずは保護者以外の大人との信頼関係を構築します（愛着形成）。同時に絵カードや絵本など活動の中に視覚情報を用いて言葉の理解に繋げるよう支援を行います。ただし、お子さまにとって興味関心のあることに対してたくさん言葉かけを行います。 言語表出はできるけれども肝心なときにうまく伝えることができないお子さまに対しては、スタッフがモデル提示したり、代弁したりして、適切な方法で相手に伝えることができるよう支援を行い、論理的に思考する力のあるお子さまに対しては、お子さまが自分で考えて答えを導き出せるようにスタッフが援助を行う等、個々の発達に合わせた対応を心がけています。 4～5歳児には文字の読み書きの練習も取り入れています。 					
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階や障害特性などに配慮して、スタッフがお子さんに丁寧な関わりを行い、人間関係や社会性の育ちを支援します。 上記の内容（言語・コミュニケーション）と重複しますが、他者との関わりより物事に興味を示すお子さまに対しては、スタッフがご本人のペースや思いに合わせて共感的な姿勢で関わり、保護者以外の大人と信頼関係を築くことに注力します。 大人とのやりとりを十分経験し、楽しむことができるお子さんに対しては、次に小集団クラスにて友達との関わりを経験していただきます。これまでは大人に合わせてもらっていたことが、対子どもとなると思い通りにいかないこともたくさんあります。痲痺や問題行動によって自分の要求を通そうとするお子さまについては、適切な要求手段、友達との接し方、ルールを守ることの大切さなど人間関係や社会性に必要なスキルを、スタッフが支援を行い学んでいただきます。 					
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と定期的に面談を行います。お子さまの力（強み）や発達段階などについて一緒に考えさせていただき、本人理解に繋がります。 親子通園（個別・集団）では、ご家族に支援場面に参加していただき、お子さまの特性や発達段階を踏まえた関わり方を学んでいただきます。 		移行支援	<ul style="list-style-type: none"> 親子通園（集団）では、就園、就学に向けての学習会や情報交換の場を定期的に設定しています。 本人中心支援会議（計画相談）にも積極的に参加し、必要に応じてお子さまの事業所での様子や支援方法等、就園、就学先に情報を提供しています。 			
地域支援・地域連携	<p>お子さまの情報や支援方法の共有など、必要に応じて関係機関（幼稚園、保育所等）と連携を図り、地域の中でより安心、安全な生活を実現できるよう支援を行います（インクルージョンの推進）</p>		職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 西宮通所支援連絡会が主催する事例検討会や各種研修会（感染・虐待防止等）に定期的に参加しています。 当センターの関係部門（医師、リハビリ、心理等）とも連携を図り、定期的にケースカンファレンスを行っています。 			
主な行事等	<p>プールあそび【親子通園（個別・集団）】、七夕、クリスマス会【親子通園（集団）】、修了式【親子通園（集団：年長児）】等</p>						